

# 地域防災拠点訓練

災害時、地域社会内では、中学生は年齢から子どもと扱われるのではなく、貴重な戦力になります。彼らは日ごろから、地域防災拠点訓練への参加や防災学習を通して、地域とつながりを持っています。今回は、区内で中学生が参加している訓練のうち、野庭中学校地域防災拠点訓練を取材しました。

平成28年10月1日、午前9時より野庭中学校地域防災拠点運営訓練が実施されました。

木村妙子運営委員長（野庭住宅連合自治会会長）を中心として、管理情報班、救護班、食糧物資班を構成する運営委員約50名と野庭中学校の生徒約20名が参加しました。



▲HUG訓練の様子

HUG訓練とは、拠点の平面図と避難者の状況を記載したカードを用いて、避難所運営のシミュレーションを行う訓練です。港南区災害ボランティアネットワークのメンバーがまとめ役となり、中学生も含めて5つの班に分かれて訓練を行いました。中学生の皆さんは、自分たちの母校が舞台とあって、委員が感心する程的確な判断力を示していました。



▲要援護者の搬送訓練



▲食糧物資班の訓練

HUG訓練の他、要援護者搬送訓練や食糧物資班訓練等でも、中学生の皆さんは大活躍しました。搬送訓練では、リヤカーや車いすを用いて、要援護者（高齢者や障害のある方など、災害時に自力での避難が困難な方）を地域ケアプラザまで搬送しました。食糧物資班では、拠点に備蓄されている非常食のバック詰めを行い、見事な手際を見せてくれました。

ひまわりの声では、港南区連合町内会長連絡協議会を「区連会または港南区連会」と記載しています。

港南警察署  
青山 利史 署長



昨年9月、港南警察署に着任しました。地域の皆様には、日頃から港南警察署の業務に対し、深い御理解と御協力をいただきまして誠にありがとうございます。着任してから、各地区で行われるいくつかのイベントに出席しましたが、地域の方々の絆が深く、連携し合いながら地域を盛り上げていこうという活気を肌で感じました。また、地域の皆さんのボランティア活動も活発で、地域づくりにも積極的であると感じています。港南警察署は、今後も地域の方々と連携を強化しながら、皆様が安全で安心して暮らせる地域社会を実現するため、全力を尽してまいりますので、引き続き御理解と御協力をお願い致します。

編集  
後記

■本号では、地域防災拠点訓練や、防災センターでの体験ツアーを取材し、ご紹介させていただきました。地域の皆さんの生の声を少しでもお届けできればと思います。ぜひご一読ください。

■本紙および区連会へのご意見・ご要望は区連会事務局までお寄せください。  
■区連会会報担当  
中島淑子／武田信雄  
編集委員  
松田英樹／筒井英子

横浜市港南区港南中央通10-1  
港南区役所地域振興課内  
☎847-8391 FAX842-8193

区連会ホームページで情報発信

港南区連合町内会 検索

2017.2.1 発行

# ひまわりの声 No.14

題字：高森政雄区連会顧問

編集・発行 港南区連合町内会長連絡協議会

## 「まさか！」ではなく「もしも…」で行動を！！

区民の皆さまには、日頃から「区連会」の活動にご協力とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

特に、防災や減災に向けた取組については、それぞれの地域において様々な工夫を凝らし、より実践的な取組が進められています。

いつ起こるかわからない大地震、しかし確実にその時は訪れます。私たちは、先ず自分自身の身を守る「自助」と向こう三軒両隣を中心に近所同士で助け合う「共助」が大災害を生き抜く鍵になることを、阪神淡路大震災、東日本大震災、そして熊本地震から学びました。

このことを踏まえ、今後、より一層高齢化が進む社会を考えると、地域の中で自ら避難することのできない人々（災害時要援護者）をどのように支えていくのか、ということが大きな課題になると思います。いざ災害が発生した時に、私たちが協力して、被害を最小限にとどめるには、行政との協働の取組に加えて、日頃の地域における住民同士のつながりづくりがとても重要です。

「まさか！」ではなく、「もしも…」を考え、一人一人が備えの行動を起こし、そして地域の絆を強めていきましょう。

また、私たち港南区民は、東日本大震災を教訓に「防災5箇条」を作りました。この5箇条を確実に実行しましょう。そして、実践的な訓練を積み重ねていきましょう。

昨年の4月、横浜市民防災センターがリニューアルしました。楽しみながら防災・減災の取組を体験出来るこのセンターを各自治会町内会や子ども会などで活用していきたいと思えます。



大地震による被害を限りなく小さくし、一人でも多くの区民の命が助かるよう日頃の備えの行動と努力を皆でしていきましょう。

港南区連合町内会長連絡協議会会長 藤田 誠治

### 防災5箇条

- 話し合おう！…家族の連絡どうするの？
- 備えよう！…最低でも、食料・飲み水3日分
- 圧死から身を守ろう！…家具転倒防止と耐震対策
- 避難時は、電気・ガスの元栓切って！
- 地震だ！…となり近所に声かけて、まずは「いっとき避難場所」

### 地区連合町内会長紹介

～平成28年度、地区連合町内会長の交替があった地区から～

現 ひざり連合自治会長  
齋藤 史明



今年度よりひざり連合自治会長に就任しました。前任の皆さんが進めていた、「住んでよかった日限山！ これまでも、これからも、いつまでも」のモットーを基に安心・安全な街づくりを継承して参ります。本年度はあいさつしよう運動を推進するために日限山小学校児童が描いてくださったポスターを街中に貼り防災・防犯にも役立つようにして参りたいと念じています。自分たちが暮らす地域に愛着を持ち、「ふるさと日限山」の意識が次の世代に繋げられるようにしていきたいと思えます。

前 ひざり連合自治会長  
森田 嘉久



3年間勤めましたひざり連合自治会長を退任いたしました。多くの皆様からのご指導・ご鞭撻に、心から感謝申し上げます。退任して数ヶ月、すでに行政・区連会・自治会が随分遠くなったように感じます。在任中、情報はもれなく周囲に伝達し、十分な議論の場を提供してきたつもりでしたが、一区民・自治会員に戻ってみると、案外それも独りよがりだったかとも思い、今さらながらに「パブリケーションの大切さ」を痛感しております。

# イサという時、役に立つのは「地域の絆」

# 「必ず」起きる震災に備えよう!



## ひまわり防災ツアー

現在の子どもたちは、  
5年後、10年後には立派なヤング・パワーになります。

平成28年8月23日、港南区役所主催、港南消防署共催による「ひまわり防災ツアー」が実施され、港南区にお住まいの15家族46名が参加しました。消防署内での講演と訓練、横浜市民防災センターでの各種体験と講演は、子ども達に“防災”の意味を具体的に伝える、有意義なイベントでした。

### ツアーの内容

#### <港南消防署>

防災に対する心構えの説明を受けながら、実際に子ども用の防災服とヘルメットを着用し、消火ホースを握っての消火訓練や最新鋭の消防車や、はしご車の性能・機能の説明を受けました。



移動の車中では、防災や救急に関するクイズを行いました。



#### <横浜市民防災センター>

※平成28年4月リニューアル  
実際に起きた地震と同じ揺れが体験できる地震シミュレーター、屋内で火災にあった際の避難体験ができる火災シミュレーター、地震や風水害等の災害を疑似体験できる減災トレーニングルーム等を回る体験ツアーに参加しました。



### 参加された皆さんに聞きました

#### <小学校5年生と3年生の姉妹>

◆今日のツアーの内容は、万一の時に役立ちそうですか?

—役に立つと思います。今日学んだことも、ノートにまとめてみました。

◆これから大人になって、家族や隣の人を助ける立場になってくださいね。

—はい!



▲港南消防署では、消防機材の説明を受けました。



▲地震シミュレーターは、揺れだけでなく発災時の街中の様子も映像で見ることができます。あまりの揺れに、子ども達からは悲鳴も!

#### <介護と子育てを両立しているお母さん>

◆参加してみて、いかがでしたか?

—あらためて、防災について考える良い機会になりました。いざ災害が起きたときに、身体に障害がある人や、転倒した家具の下敷きになって身動きが出来ない方々の“命綱”は、避難所でご近所の方々に「Aさんが居ない…」と気付いてもらうことだと思います。そのため、日頃らご近所づきあいだとか、普段のあいさつが大事になると思います。

それぞれに事情や理由があるのですが、引きこもっている方々とか、となり近所と全く交流のない人は、万々の時に、どうなさるのだろうか?…と心配してしまいますね。

万一の時、“自助”“共助”がいかに効果を発揮するかは、日常における隣人との交流の“積み重ね”にかかっています。

政府の地震調査委員会のデータによると、「今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率」は、横浜市では81%※と高い確率になっています。

地震は、地球の表面にあるプレートが移動する際に発生する「ひずみ」が原因であると考えられていますが、日本列島は、太平洋プレート、北アメリカプレート、フィリピン海プレート、ユーラシアプレートの4つのプレートが重なり合っており、まさに超巨大ナマズのように、地震の元凶が潜んでいるのです。

私達横浜市民は、どのような“大災害”が発生するのか?を想像し、その中での「自助とは何か?」「共助とは何か?」を具体的に考え、訓練を重ね、自分自身、家族、隣人の生命を守るべく“備え”を強化していく必要があります。

その第一歩が、日常生活における「ご近所づきあい」、「向こう三軒両隣」の方々との交流なのです。

※発生確率は、横浜市役所本庁舎周辺の数値

防災科学技術研究所ホームページから、自宅周辺など、気になる地域の確率を調べることができます。

J-SHIS  検索

#### <2人の子を持つお母さん>

◆参加してみて、いかがでしたか?

—勉強になりました。この防災センターは、災害に対する知識などを学ぶ場所としてもっと積極的に活用されるべき…と思います。たとえば、各地域の住民が自治会だけではなく、ご近所同士や知り合いなどと、気楽に見ることができれば良いと思います。ご高齢の方々や、身体に障害があって、災害時に避難が大変な方々も、積極的に利用できるといいですね。そういった方向けに、送り迎えがあるととっても良いと思います。



▲消火器を使用した消火訓練



▲火災シミュレーター

横浜市民防災センターでは、体験ツアーの予約を受付けています。

住所：〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-7

問合せ先：045-411-0119